

事務局から

◆総会で、今後2年間の研究所体制が承認されました。長年、所員として研究所を支えてこられた内山雄平さんと吉田武雄さんが勇退されます。それに伴い研究所の所員は7名から5名になります。今まで通りの質と量を保つ研究所の活動は大変困難になることを覚悟しつつ、なにかいい手立てはないかと思索しています。その一案として、ZoomやSNSの活用を検討しています。所員会議は自宅から参加できるようにZoomで行うことが多くなりました。

総会の記念講演をYouTubeで発信することも検討中です。会員の皆さんの支えを受けながら、研究所の活動を継続していきたくと思っています。困難な中、研究所の果たすべき役割は何か、改めて会員の皆さんと検討しなければならぬと思っています。

編集後記

特集は研究所創設40周年記念号として、原稿を会員の方に公募しました。寄せられた原稿を読み、それぞれの方々の教員人生で、研究所の活動が大きく関わっていることを綴っていたいただきました。40年を経過し、当時と比較して、組織も教育を巡る課題も大きく変化しています。こ

のような状況下で、「研究所の理念を受け継ぎながらどう展開していくか」が大きな課題です。

小特集は、柏崎刈羽原発再開問題と取り上げました。国・経済界・東京電力・地元首長は再稼働に躍起です。一方で、県民の未来は県民が決めると、「原発再稼働の是非を問う住民投票条例制定を求める」署名も行われています。今号では、4人の方の論を掲載しました。

飯田耕平さんからは、原発設置の歴史的経緯から柏崎市の現状分析を論考していただきました。丹治杉江さんは、事故後13年経つても終わらない福島島の現状報告です。小林正弘さんからは、原発ゼロが台湾やドイツにできてなぜ日本にできないのか論じていただきました。立石由美さんからは「柏崎・刈羽原子力発電所に係る国の取組みに関する県民説明会」の様子を報告していただきました。

今年のノーベル平和賞を被団協が受賞しました。赤井純治さんから受賞の意義を論じていただきました。時期を得た論考です。(和澄利男)

雑誌価格のお願い

前回号で予告させて頂いたように、今回号から、本体価格を800円(税込)を880円(税込)から900円(税込)へ(税込990円)に改定いたしました。ご了解ください。

お詫び

前号に掲載した成嶋隆さんの「奈良教育大学附属小学校と学習指導要領」と細貝正人さんの「山形の農民群像」の2編に校正ミスがありました。ご二人にお詫びするとともに、今後、このようなミスを起こさないように、編集委員一同の編集作業を進めていきます。

にいがたの教育情報 No. 141

2024年12月25日発行

編集 にいがた県民教育研究所
 編集委員代表 和澄利男
 編集委員 伊藤英世 小野塚恒男 河合靖久
 小東由男
 発行 にいがた県民教育研究所
 発行人 小林 昭三
 〒956-0024 新潟市秋葉区山谷町3-2-9
 和澄利男気付 TEL・FAX 025-369-0671
 振替口座 00640-0-12332
 Eメール kyoikut2nde-m@na.ncv.jp
 印刷所 神林印刷 TEL 0254-66-7959

本誌内容の無断転載を禁じます。